



博学多彩の

画家として

清須ゆかりの作家

太田三郎



2024 11.1|金| → 12.25|水|

清須市はるひ美術館

〒452-0961 愛知県清須市春日夢の森1
TEL 052-401-3881
<https://www.museum-kiyosu.jp>

開館時間:10:00-19:00(入館は18:30まで) 休館日:月曜日(祝日の場合は開館、翌平日が休館)

観覧料:一般 500円/中学生以下 無料

・各種障がい者手帳等提示者および付添人1名は無料

・20名以上の団体および清須市立図書館貸出利用カード提示者は1人400円

主催:清須市はるひ美術館



《三嬌図》1929年 油彩、キャンパス 愛知県美術館蔵

鹿島晴秋(絵:太田三郎)『お伽図書館』中西屋書店 1912年 名古屋市鶴舞中央図書館蔵/太田三郎『小品画集 蛇の殺』精美堂 1911年 個人蔵/太田三郎『略画の泉』崇文堂 1933年 名古屋市鶴舞中央図書館蔵/
川端康成(絵:太田三郎)『浅草紅団』(『モダンTOKIO』内舞曲 新興芸術派十二人 (世界大都会先端ジャズ文学))』春陽堂 1930年 名古屋市鶴舞中央図書館蔵/太田三郎『菓(ひこばえ)』精美堂 1911年 個人蔵/より抜粋

KIYOSU
CITY
HARUHI
ART
MUSEUM

清須ゆかりの作家

太田三郎

博学多彩の画家として

太田三郎(1884~1969)は愛知県清須市西枇杷島出身の画家です。10代で上京し、まず日本画を学んだのち、洋画に軸足を移し官展などに出品。洋画家としてキャリアを重ねるかわら、雑誌や小説の挿画、絵はがきなどの大衆媒体において印刷物・版画の表現にも取り組みました。文筆活動にも積極的で、初学者やアマチュア画家に向けた創作の指南書のほか、民俗学と美術史に関する研究をもとにした著作を数多く残しています。

戦後、愛知に帰郷。中部日本美術協会の委員長として東海地域の美術家たちのまとめ役を務めたほか、1955年に開館した愛知県文化会館の美術科長に就任し、地域文化の発展に尽力しました。

画家、文筆家、研究者、組織の長など、「オールラウンダー」として足跡を残した太田三郎。本展ではこれまであまり顧みられてこなかったこの作家について、没後初めて概観します。

学芸員によるギャラリートーク

日時:11月16日[土]、12月15日[日]
各日午後2時~(40分程度)
申込不要(要観覧料)



3



5



6



7



7



8



9



1



2



4

- 1.《カフェーの女》1914年 木版、紙 愛知県美術館蔵
- 2.《窓辺》1930年代 油彩、キャンバス 名古屋美術館蔵
- 3.『世界裸体美術全集』平凡社 1931年 名古屋市鶴舞中央図書館蔵
- 4.『武蔵野の草と人』金星堂 1920年 名古屋市鶴舞中央図書館蔵
- 5.『俗謡画集 朝霧』上下巻 精美堂 1912年 個人蔵
- 6.『小品画集 蛇の殻』より 精美堂 1911年 個人蔵
- 7.『ハガキ文学』11月号 日本書局(博文館) 1906年 個人蔵
- 8.絵はがき 日本書局 1905年頃 個人蔵
- 9.《少婦凭欄[沈丁花]》1914-16年 絹本着彩 鯉尾コレクション

夢広場はるひ 清須市はるひ美術館

〒452-0961 愛知県清須市春日夢の森1
TEL 052-401-3881
<https://www.museum-kiyosu.jp>

清須市はるひ美術館はTRC・名古屋三越グループ共同事業体が管理・運営しています。

交通案内

- 電車
 - ・JR東海道本線「清洲駅」下車 徒歩約20分
または「きよすあしがるバス」をご利用ください
 - ・JR東海道本線「稲沢駅」下車 タクシーで約10分
 - ・名鉄本線「新清洲駅」下車 タクシーで約10分
- 車
 - ・名二環 清洲東ICより約5分
 - ・名神高速道路 一宮ICより約20分
 - ・名古屋高速道路 一宮からは春日出口より約5分
名古屋からは清須出口より約5分
 - ・無料駐車場をご利用ください(104台)

